

赤塚新町小の NIE ～読み解く力の育成～

板橋区立赤塚新町小学校 教諭 渡辺 高宏

本校では、板橋区が重点的に推進している「読み解く力の育成」を基盤に、児童の学力向上及び言語活動の充実をめざして、NIE（Newspaper in Education：新聞活用教育）に取り組みました。今年度は、国語科や社会科、総合的な学習の時間を中心に活用を進めました。

報告書

1 読み解く力の育成に向けての実践

【国語科「書き手の意図を考えよう 新聞記事を読み比べよう」】

国語の単元である「書き手の意図を考えよう 新聞記事を読み比べよう」において、新聞記事を教材として活用しました。活用場面は、主に3つ設定しました。

① 導入場面

児童が興味をもった新聞記事を選んで、読む活動の際に、複数社の新聞記事を並べました。複数の新聞が手元に用意できたことで、児童が記事を選ぶ選択の幅を広げることができました。選択肢が広がったことで、どの児童も興味をもった新聞記事を選ぶことができ、新聞に親しむことや学習に意欲的に取り組むことができました。

② 記事の読み比べ

同じ事柄について記述している記事を複数提示し、見出しや文章表現の違いを考えました。教科書にも記事の例が載っているので、その例を見て比較して考えることもできますが、実際の新聞も、教科書に載っているように、同じ事柄について記述していても、意図によって違った表現の仕方になることを感じさせることができました。

③ 学習のまとめ 記事の見出しを考える学習

新聞記事や写真だけを見て、その見出しを考える学習活動に取り組みました。複数の新聞社の新聞が手元に集まっていることで、それぞれが興味をもった記事を選び、多種多様な記事について、内容を読み取って意図を考え、見出しを考えることができました。

単元全体を通して、児童は記事を読み、要点を整理した上で、自分の考えを文章にまとめたり、友達と意見交流を行ったりしました。この過程で、文章の構成を意識して読み取る力、情報を整理して自分の言葉でまとめる力が伸び、まさに「読み解く力」の育成につながりました。

【総合的な学習の時間・社会科 「経験したことを新聞にまとめよう」】

行事（運動会・社会科見学・修学旅行など）を通して児童が感じたことや発見したことを、新聞の形式でまとめる学習活動を行いました。以下の3つのステップを設定しました。

① 記事の題材選びと構成の検討

児童が経験した膨大な情報の中から、最も伝えたい「ニュース（中心となる出来事）」を選ぶ活動を行

いました。参考文章のように複数の視点を意識させるため、教員が撮った写真やメモを並べ、どの場面を大きく扱うかを選択させました。選択肢（材料）を机上に広げて整理したことで、児童は自分なりの「新聞の目玉」を明確にし、意欲的に執筆を開始することができました。

② 「読み手」を意識した見出しとレイアウト

単なる感想文ではなく、新聞という形式を活かし、見出しや文章表現にこだわらせました。同じ行事を経験していても、児童によって「努力したこと」を伝えたいのか、「驚いた発見」を伝えたいのかという「書き手の意図」が異なることを意識させました。実際の新聞の見出しの付け方を参考に、五・七・五のリズムを使ったり、強い言葉を選んだりすることで、意図がより明確に伝わる表現を追求させました。

③ 相互推敲と読み合い（交流学习）

完成した新聞を掲示し、お互いに読み比べる時間を設けました。同じ行事を題材にしながらも、一人一人見出しの付け方や記事の構成が全く異なることに気付かせました。友達の新聞を読むことで、「この見出しは内容がすぐ分かっていいな」「写真の説明が丁寧で伝わりやすい」といった具体的な良さを発見し、多角的な視点で行事を振り返ることができました。

単元全体を通して、児童は自分の経験を客観的に見つめ直し、要点を整理した上で、読み手を意識した文章にまとめる力を養いました。この過程で、事実と感想を区別して構成する力や、情報を取捨選択して自分の言葉で発信する力が伸び、まさに「情報を整理し、表現する力」の育成につながりました。

2 今年度の成果

- ・複数社の記事比較を通じ、情報の要点整理や書き手の意図を多面的に捉える力が育ちました。
- ・事実と感想を区別し、根拠をもって自分の考えをまとめる言語活動が充実しました。
- ・読み手を意識した見出し考案やレイアウトの工夫により、情報を再構築して発信する力が向上しました。
- ・廊下掲示やワークシートの常設により、朝読書や休み時間に自主的に新聞に親しむ児童が増えました。
- ・図書室との連携により、教科書で学んだ作者への理解が深まり、児童の読書の幅が広がりました。

3 今年度の課題

- ・現在は特定の学年・教科での実践が中心であるため、全校体制での継続的な指導計画の策定が必要でした。
- ・一般紙には難解な語彙も多いため、低・中学年でも活用しやすい子供新聞の導入や、教員による補助資料の検討が必要な状況がありました。
- ・社会的な出来事を扱う際、学校教育における中立性を保ちつつ、多様な視点をバランスよく提示する指導法の研究を重ねていく必要性を感じました。

来年度は、学力向上及び研究推進の一環として、新聞社が発行しているワークシートを活用し、読み解く力を育成し、継続的に新聞に親しむ取組を進めていく予定です。また、板橋区が掲げる「読み解く力の育成」をさらに充実させ、児童が社会の出来事を自分事として考え、主体的に表現する力を伸ばしていきたいと考えています。